

高等学校・支援学校高等部 芸術(書道)

実技試験問題

一

次の(一)～(三)の古典をそれぞれの指示に従い、臨書せよ。

(一) 継色紙(指示…改良半紙を横に使い、毛筆を用いること。)

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。

出典…日本名筆選13 継色紙
二玄社
14ページ、15ページ

- (二) 石鼓文（指示：半紙を縦に使い、毛筆を用いること。） 积文 君子之求

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：特別展 顔真卿 王羲之を超えた名筆
毎日新聞社
21ページ

- (三) 真草千字文（指示：半切を縦に使い、毛筆を用いること。）

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：特別展 顔真卿 王羲之を超えた名筆
毎日新聞社
44ページ

二 次の(一)～(三)に答えよ。

- (一) 次の□の中の語句を半切に揮毫せよ。（毛筆を用いること。用紙の縦横、書体、書風は自由。落款は「庚子八月 順平書」とすること。）

魚戯蓮葉間

- (二) 次の□の中の和歌を、仮名の書として表現力豊かに揮毫せよ。（漢字・仮名の変更、変体仮名の使用は自由とし、加工紙半切を縦に使い、落款印の代わりに「○」を墨書すること。）

袖^{そで}ひちて むすびし水^{みづ}の 凍^{こほ}れるを 春立^{はるた}つ今日^{けふ}の 風^{かぜ}や解^とくらむ

- (三) 次の□の中の語句を、次に示す条件にあてはまるよう揮毫せよ。

〈条件〉

生徒に示す作品例として、「漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成」の工夫及び「漢字と仮名の調和した線質による表現」の技能について考えさせることができる作品であること。

漢字・仮名遣いは□の中のままとし、半切を使い（縦、横自由）、落款印の代わりに「○」を墨書することとし、書体、行送りは自由とする。

文を作るのに欠くべからざるものは何よりも創作的情熱である

三 次の(一)、(二)に答えよ。

- (一) 次の□の中の、封筒表書き、封筒裏書きを、封筒を縦に使い、ボールペン(消せるボールペンを除く)で体裁よく書け。

封筒表書き

(郵便番号) 123-4567

神戸市須磨区内浜町三丁目七-十五

常盤莊子様

封筒裏書き

(郵便番号) 890-1234

大阪市中央区大手前二丁目

鈴木美紀

- (二) 次の□の中の手紙文を、便箋一枚を縦に使い、ボールペン(消せるボールペンを除く)で体裁よく書け。(頭語、時候の挨拶、結語は適切な言葉を補うこと。)

手紙文

頭語

時候の挨拶

先生にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。私は残り少ない大学生活を楽しんでいきます。

さて先日、友人たちと集まる機会があり、その折、十月の同窓会に先生がお出でになることを聞きました。ぜひお会いして、近況をご報告したいと思っています。暑い日が続きますがどうぞご自愛ください。

結語

八月二十四日

鈴木美紀

常盤莊子先生

